

業務・システム 最適化と 最新検索技術 —さらなる進歩をめざして—



1984年にペーパーレス計画が開始されて以来、特許庁は先頭を切ってシステム開発を進め、庁内業務の変革のみならず制度ユーザーにも先進的なサービスを提供し、電子政府のさきがけとしての地位を築いてきました。

この間、情報技術は飛躍的な発展を遂げ、インターネットをはじめとする情報通信技術や新しい知識処理技術、検索技術などが次々と生まれてくる一方で、私たちの特許行政分野においては、



滞貨の増加、出願内容の複雑化といった様々な課題が顕在化してきました。

これらの課題に対処すべく、さらなる業務の円滑化・効率化を目指して、「特許庁業務・システム最適化計画」が策定され、鋭意設計・開発が進められています。

そこで本特集では、現在進行中の「特許庁業務・システム最適化計画」にスポットを当て、計画の2本柱である新事務処理システム及び新検索システムについて、最前線で設計・開発に携わっ



ている方々から、概要や検討状況などをご紹介いただくとともに、検索技術やデータ分析技術の最新動向について、わかりやすく解説していただきました。また、その関連技術として、現在民間で用いられている特許管理ツール、Web検索技術についても最新のトピックとして取り上げました。さらに、現在検証作業が進められている検索システムの諸機能について、編集委員による体験記を書きましたので、そちらもあわせてご覧ください。



近い将来、特許庁の事務処理システムはどのような変貌を遂げるのでしょうか。そして、知識処理を利用した最新の情報技術は、特許審査にどのような風を吹き込むのでしょうか。

ペーパーレス計画から25年の節目の年、今もなお進化し続ける特許庁の「新しい試み」への理解を深め、新システムの将来像とその可能性に思いを馳せてみませんか。